

## 第 70 回町田市環境審議会議事要旨

【日時】 2017 年 8 月 4 日（金） 18：30-20：30

【場所】 町田市庁舎 2 階 会議室 2-2

### 【出席者】

委員：吉村委員（会長）、川瀬委員（職務代理）、鳴海委員、堂前委員、宮下委員、  
渋谷委員、中丸委員、山崎委員、渡邊委員、岩上委員

事務局：環境資源部 水島、環境政策課 塩澤、高橋、濱田、坂牧、香山  
環境・自然共生課 大久保、菱谷、浅野、黒田

経済観光部 農業振興課 井上、北部丘陵整備課 小林

傍聴：1 名

### 【報告】

- 1 後期アクションプランについて
- 2 2015 年度進捗状況の点検評価への対応について（資料 1）

### 【議題】

- 1 「第二次町田市環境マスタープラン」2016 年度進捗状況について（資料 2）
- 2 「町田生きもの共生プラン」2016 年度進捗状況について（資料 3）

### 【資料】

資料 1：2015 年度進捗状況の点検評価への対応

資料 2：「第二次町田市環境マスタープラン」の 2016 年度進捗報告書

資料 3：「町田生きもの共生プラン - 生物多様性はじめの一步」2016 年度進捗報告書

参考資料：2017 年度環境に関する市民アンケート調査結果

参考資料：「アクションプラン ～第二次町田市環境マスタープラン推進計画～」  
環境施策の進捗状況

参考資料：後期アクションプラン重点事業 2017 年度目標一覧

## 報告

### 1 後期アクションプランについて

(事務局説明)

川瀬委員：後期アクションプラン概要版は具体的にどんな場所に配布されたのか。とても分かりやすい内容になっているので、配布計画をどのように考えているのか教えてほしい。

事務局：1000部作成し、市民センターなどに350部、イベント時に650部の配布を考えている。今後様子を見て増刷していくことも視野に入れている。

### 2 2015年度進捗状況の点検評価への対応について

(事務局説明)

岩上委員：生きものストップとは具体的にどういうものなのか。施設なのかフィールドなのか、説明してほしい。

(共生プランの進捗報告の中で説明)

## 議題

### 1 「第二次町田市環境マスタープラン」2016年度進捗状況について

(事務局説明)

#### 基本目標 1

山崎委員：達成目標の二酸化炭素排出量削減について、達成できない理由としては原発などの影響による係数変動の影響が大きいという事だが、そもそもこの目標は行政の努力で何とかなるものなのか。何か考えがあるのか。

事務局：確かに排出係数による増減は致し方ない部分もあるが、市役所としては市民の方への地道な省エネの取り組みを啓発していくという形で取り組んでいきたいと考えている。

山崎委員：例えば「市民一人当たりのエネルギー消費量」を補助目標とするなどすれば取組も考えやすいが、発電による二酸化炭素排出などは市民が関与する部分ではないので、市としての目標値管理の方法については今後検討した方がいいのではないか。

会長：次の段階で検討をお願いします。

渡辺委員：達成目標と重点目標はリンクする作りになっているようであるが、今回の資料から実際のアクションプランを確認すると、その繋がりが一見わかりづらい。

達成目標と重点目標がそれぞれ載っていることはわかるが、「一つの達成目標に対して、どういう取り組みを行ったから達成になったのか」というような関係性がわかりづらい。次回以降は資料のまとめ方を工夫してほしい。

加えて、重点目標の達成状況について、後期アクションプランと今回の資料で達成事業の数が違うのはどう解釈すれば良いのか。

事務局：後期アクションプランには去年時点の2016年度達成見込みが記載されているが、今回お配りしている資料では実際の結果を記載しているため、数字が減少している。

鳴海委員：事務局から16年度の進捗ということで説明を受けたが、これは後期アクションプランに繋げるという事でもないし、前期総括という事であれば、この時間は何を目的に議論したらいいのかを説明してほしい。

事務局：後期アクションプランは既に策定している状況ではあるが、前期から継続する重点事業もあるので、今までの取り組みを踏まえたうえで、後期の施策実施に活かせるような御意見をいただければと考えている。

鳴海委員：ただその意見によって事業の指標を変更できるというなら議論のしようもあるが、向こう5年間は変えられないという事であれば厳しい。

事務局：ご指摘のとおり指標について変更することは難しいが、施策の取り組みについてご意見があればお聞かせ願いたい。

渋谷委員：後期の途中で改定はできないのか。あるいは重点施策の取り組みを意見によっては変容させるようなイメージなのか。

事務局：あくまで既存の取り組みの中で反映できるご意見があれば、ということである。プランの改定については考えていない。

渋谷委員：重点事業での変更が可能であるとすれば、パリ協定について、アメリカ離脱の影響がどの程度町田市にあるのかはわからないが、国や都の対策、動向を踏まえて、市としてもそこを意識した動きを考えるべきなのではないか。世界の動向とかけ離れたことを町田市がやろうとしているのであれば、変更した方が良い。達成目標に捕らわれず、積極的に取り組んでいただきたい。

堂前委員：資料1の2ページのアンケート結果について、設問ごとに回答者の世代偏向がわかるようにしておいた方が良い。

会長：アンケートの設問については次回以降見直しを検討するということである。内容については、回答が高齢者に偏らないための対策も今後必要ではないか。

渋谷委員：基本目標2にも関連するが、緑地の面積について、住宅業界の話題として注目されている2022年問題（緑地が宅地に転用されるのではないかとという問題）についてはどう対応していく心積もりなのか。少なからず緑地が減少することは確実と言われているので、プランにも影響してくるのであれば対策が必要なのではないか。

## 基本目標 2

- 宮下委員：重点事業11について、目標達成には至らず後期は山林の活用をと書いてあるが、具体的にはどういったことを考えているのか。
- 事務局：北部丘陵整備課の事業に関する部分でいうと、「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン」の中で掲げられている重点事業に「里山環境の回復や保全を促進する仕組みの構築」があり、その施策として「(仮称) 町田市山林バンク」というものを創設しようと考えている。これは、手入れが行き届いていない山林について、維持管理を行いながらその自然環境を活かした取り組みを実践したい個人、地域団体、地権者それぞれの橋渡しを市が行うことを目標に掲げている。2017年度にモデル地区の抽出、2018年度にモデル地区での事業実施、2020年度から本格運用という計画を組んでいる。あとは収穫した農産物の販売や環境学習体験プログラムの実施を通して、里山環境の回復保全活動の中で個人や団体が自ら収益活動を行うことが出来るような仕組みを構築するということである。
- 会長：後期アクションプランでいうと37、38ページに該当の記載がある。
- 渋谷委員：後期アクションプラン72ページの付属資料では緑地割合を2020年度までに概ね30パーセント確保とあるが、2022年問題を考えると、難しいのではないかと。緑地を守るための条例等を制定するなどして対応してみてはどうか。
- 岩上委員：資料1、5ページの重点事業13のフットパスについて、実際に現場を歩いてみると案内の掲示看板が小さく、情報も少なくてわかりにくい。「まちだフットパスガイドマップ」と併せて確認すれば何の案内なのかがわかるが、事前に調べて来る人でなければわからない。これではせっかくフットパスルートを整備しても意味がない。他の市町村はもっと大きくわかりやすくルートを掲示している。以前産業観光課にも話したが、無いよりは良いだろうという回答しかもらえず、大変情けないと感じた。環境アンケートではフットパス道標についての“評価”という観点での設問も必要ではないか。

## 基本目標 3

- 山崎委員：資料1、6ページ③について、新たな資源化施設の稼働とは具体的にどのようなことなのか。
- 事務局：生ごみをバイオガス化して資源化する施設稼働と、容リプラの回収施設についても収集が全市展開となれば資源化可能な施設となるので、そういった施設について準備している。
- 山崎委員：資源化できた分量などは量ることができるのか。
- 事務局：分別した収集量で量ることができる。
- 山崎委員：資源化という事でいうと、町田市がゴミ焼却施設で発電している電気については資源化率に入れているのか。
- 事務局：資源化率の数値には含まれていない。
- 山崎委員：施設の発電については、扱い方の工夫を今後検討してみてはどうか。

#### 基本目標 4

中丸委員：資料 1、8 ページのアンケート結果について、カラス等の鳥獣による被害が今後は増えそうだがどうか。

事務局：鳥獣の管轄は東京都である。ゴミ集積所のカラス問題についてはネット貸し出しなどの対策を実施している。

#### 基本目標 5

(意見等なし)

#### 全体

岩上委員：目下様々な団体が緑地保全の活動をしているが、その際に具体的な活動の指標となるガイドブックのようなものが町田市には無い。自治体では横浜市が進んでいて、どんな植物をどのように育てたらいいのかまで書いてある。加えて、環境保全活動のイベントを開催しても、人が集まらない。集まっても定着しない。そういった点についても横浜市の冊子では、“ピザ焼”などのイベントを取り組み例に挙げている。やはり、例えば芋ほりのイベントをするならば、その後には焚火で焼き芋をして食べるとこまでいけるような、楽しいイベントを行いたいのだが、町田市ではそういう事は推奨しないとしている。補助金等の額も少なく、組織が回らない。主催側の高齢化も深刻で、若年層を集めようにも、遊びを交えた楽しい企画を催すことが難しい。そんな状況の中であって、現状では生物多様性とは何なのか知らない人も多く、外来生物に対してどう対応しているのか知らない人も多い。町田市にはそういったことがわかるようなガイドブックを作ってほしい。そして、公園や北部丘陵など部をまたぐ組織をまとめる役割をぜひ環境資源部にお願いしたい。

## 2 「町田生きもの共生プラン」2016 年度進捗状況について

(事務局説明)

### ●重点プロジェクトについて

事務局：(冒頭の「生きものストップ」に係る質問について)

生きものストップ(仮称)は、箱物を新規に作るわけではなく、既存の市所管施設や指定管理の建物の一部を活用するなどしての設置を検討している。内容は、地域活動団体によるイベントの紹介や、生きもの全般に係る様々な情報発信や資料配布。可能であれば標本等も設置することを検討している。

岩上委員：忠生公園のがにやら自然館のようなものが出来るとイメージすればいいのか。

堂前委員：掲示が中心ということか。

川瀬委員：以前の審議会で、バーチャルでは不十分なので情報収集だけでなく、拠点整備

にも力点を置いて取り組んでほしいと申し上げたが、その答えが、先程説明いただいた既存の建物でという形で実を結ぼうとしているのだろうと考えている。しかしながら地域の広場的な施設をイメージしているのであれば、場所については多くの人目に留まるような立地でないと、施設の趣旨に沿った効果は期待できない。人の集まる場所であるとか、駅の近くであるとか、普段は生きものに縁遠い人が気軽に訪れることのできるような場所に施設を作ってもらえると、生物多様性センターという狙いに近づいていくのではないか。

岩上委員： “ストップ” の意味は。

川瀬委員： 言葉の響きでマイナスに感じるかプラスに感じるかはわからないが、呼称としての新鮮さもあり、個人的には好意的に感じている。

渋谷委員： 以前も申し上げたが、市役所ホームページ内に生物多様性のページを作成したと書いてあるが、やはりすぐにたどり着けない。わかりづらいので、もっと目立つ場所に載せることはできないのか。生きものストップについても、周知・広報の仕方をよく検討しないと、集客が見込めない。分野が特定された施設であるので、余程目立つように、アクセスしやすいような場所に設置していかないと厳しい。

川瀬委員： ターゲットとしては、大人だけでなく、子どもたちにも届くような工夫が欲しい。

生きものと出会うきっかけになるような取り組みを行えるとなお良い。なかなか生きものと触れ合えない人に向けての投げかけを意識してほしい。

堂前委員： 先程も意見があったが、現場の活動団体・協力者の人手不足、高齢化は深刻であるにもかかわらず、市民団体へのバックアップ体制の施策が少ない。市民協働も大事だが、協力している市民団体への補助が今とても必要である。外来生物については、エリアごとの生息状況などを明示して注意喚起していくようなものが必要である。地域ごとの課題がわかるような工夫をお願いしたい。

渋谷委員： 町田市は「地域経営ビジョン 2030」ということで、新たな計画を策定されている。その中にはコミュニティビジネスに係る部分があり、併せて「はじめよう！まちだのコミュニティビジネス」「まちだから始めるコミュニティビジネス」という冊子も作成されている。つまり、事業者の視点も取り入れていこうということで、生きものストップに関して考えてみても、ボランティアやNPO頼みの協働だけでは事業を継続して発展させていくことを考えたときに少々不安である。事業者を巻き込む仕掛けを考えていくことも、今後は必要になってくるのではないか。

鳴海委員： 重点プロジェクトとして5つ挙げられている中で、2から5までは重点プロジェクトの内容と指標が直結しているが、1だけが間接的な指標になっていて違和感がある。例えば機能の数を指標にするとかであれば、目標の達成が確認しやすいと思うが、なぜそうなのか。

事務局： 市が何をしたいかというアウトプットの指標だけでなく、成果の見える指標が欲しいということで、重点1については関心度ということにしている。プラン策定時にはこの指標を掲げているが、現在はアクションプランの中で直結した指

標も出しているのので、進捗管理はしていけると考えている。

鳴海委員： 勿論関心度という指標自体は野心的で面白いと思うが、果たしてそれが 40 パーセント達成に繋がるのかわかりづらいので、のちのちのことを考えるともっと直結した指標も良いのではないかと。

(事務局説明)

●各施策の取り組み状況について

堂前委員： 環境講座の実施（2-1-1）について、HATS 卒業生へのフォローが無い。現状では講座を修了した後は各々勝手にやって下さいということになっている。これでは卒業生が独自に団体を作ったり、既存の団体に入ったりするにしても、取り組みが広がっていかない。上手にコミュニティー作りに繋げられるような仕組みを行政の方でもサポートしてほしい

川瀬委員： そのためには、緩やかなネットワークが出来てくると良い。講座受講を経て、リーダーとなるべき人たちがまた集まれるような横の繋がりが欲しい。そういう意味では生きものフォーラムは関係作りの場でもあるので、そういう活用にも繋げられると良い。

岩上委員： 現在活動している団体については、市役所からの依頼で作った側面がある。その場合、一定のサポートはしてもらえるが、担当者の異動でサポートが無くなってしまいう事もあるので、市民同士の繋がりで活動を維持できるようなネットワークと、それをまとめてくれる役所がその仕組みをしっかりと引き継いでいてくれることを期待したい。

会 長： 継続的に市民と役所が手を取り合って取り組んでいける体制を検討していただきたい。

中丸委員： 市民が町田市の中だけで活動を完結させるのではなく、隣接市の方等と共に相互に活動していくような視点を持ち、更に情報交換することができれば、今までにない視点が生まれ、取り組みにも幅が出てくるのではないかと。

会 長： そういった連携が可能な分野があれば検討願いたい。

堂前委員： かつて川崎・横浜・町田の 3 市連携企画を開催したことがあった。そのようなことがまた出来ると良い。

岩上委員： やはり核となる組織がないと消えてってしまう。市役所だけではなく、外郭団体なども駆使して考えていけば実現できるものもあるのではないかと。

会 長： ぜひ検討をお願いしたい。

渋谷委員： 4 ページの意識高揚について、話題性のあることを発信して、それについての催しを開催する等していくと良いのではないかと。最近ではヒアリやヤマカガシなど話題性の高いものをテーマにした企画を作れる仕掛けがあると活性化に繋がるのではないかと。

会 長： ここまでの意見を事務局で取りまとめていただき、審議会の意見としたいと思っております。ありがとうございました。

最後に

各委員から任期終了のご挨拶

閉会